

東京オリンピック大会の競技の絵文字が三月に、東京パラリンピック大会については四月に発表された。大会の競技が絵文字で表示されたのは一九六四年の東京大会が最初である。当時の外国人来訪者は現在の二〇〇分の一程度であり、都内の英語の表示はほぼ皆無であったため、競技だけではなく交番、便所などの公共施設の絵文字も作成された。

オリンピック競技の絵文字は以後の大会にも継承され、二〇〇〇年のシドニー大会ではオーストラリアの先住民族アボリジニの狩猟道具ブーメランの形状、二〇〇四年のアテネ大会では古代ギリシャの陶器の図柄、二〇〇八年の北京大会では古代の甲骨文字を利用というように各国の文化を反映するレガシーになっている。

日本が発明した絵文字がもう一種ある。携帯電話で使用される絵文字である。一九九九年にiモードが登場したとき、一七〇種類以上の絵文字が用意された。二〇一〇年に絵文字がユニコード（六桁の一六進数で世界の文字を表現する業界規格）に登録され、数多くのプラットフォームで利用可能になっている。この絵文字は世界に一気に浸透し、イギリスの言語学者は文字の普及速度としては史上最速と評価しているし、二〇一五年のオックスフォード英語辞書の今年の言葉にも選出されている。インスタグラムで絵文字が使用されている頻度は上位からフィンランド、フランス、イギリスという状態で、完全な世界文字になっている。

この効用はウシとかネコの図形を選択すれば事物の伝達ができる利便だけではなく、笑顔や泣顔を送信すれば、複雑な感情も記号で表現できるようになり、文字通信による情報伝達の内容が拡大したことである。二〇一五年に安倍首相と会談したオバマ前大統領は「日本発祥で世界に普及した文化」として謝意を伝達している。

絵文字を代表とする象形文字の歴史は日本が発祥ではない。古代エジプトには遺跡などに記載されたヒエログリフが存在し、古代中国で使用されていた甲骨文字も発掘されている。さらに中国の奥地に生活する人口三〇万人程度の少数民族はトンパ文字と名付けられた一四〇〇程度の象形文字を現在でも使用している。

発祥の土地ではないにもかかわらず、日本が現代に絵文字を発明した背景には漢字による表意文字と二種の仮名による表音文字を融合して思想を表現してきた文化が影響している。どちらも文字コードというデジタル符号で通信できるが、漢字はデジタル符号以上の表意文字としての役割を体現している。

その一例は改元された年号「令和」の発表において、「令」と「和」という文字に長年にわたり蓄積されてきた文化の意味が丁寧に解説され、毛筆で清書されたアナログの文字によって国民に告知されたことである。キリスト教徒以外には符号でしかない西暦という数字により時代を表現する世界では異質の文化である。

地球の多様な自然は土木技術や機械装置により一様な環境に変容してきたが、世界の多様な文化もデジタルという情報装置により均質な社会に変更されている。それは便利ではある一方、情報の本質である多様性を消滅させていく。二種の文字を一体として使用する世界でも唯一という表記体系を維持してきた文化が誕生させたのが絵文字なのである。